

令和 8 年 第 1 回 下区 新たな村づくりプロジェクト「全体会」 議事録

- 1 日時：2026 年 7 月 12 日
- 2 時間：13 時 30 分～14 時 30 分
- 3 場所：下区集会センター
- 4 出席者：別添参照
- 5 議題
 - (1) R8 農山漁村振興交付金の採択について
 - (2) R8 の予算及び活動方針について
 - (3) 規約改正について
- 6 議事の経過の概要及び結果

【司会（松尾）】

本日は、ご多用の中お集まりいただきありがとうございます。

ただいまから、「下区 新たな村づくりプロジェクト」の令和 8 年第 1 回目の全体会を開催いたします。

私は下区ちくせん実行委員をしております松尾と申します。本日の進行役をさせていただきますので宜しくお願い致します。今日の会につきましては、お手元の議事次第に従いまして進めさせていただきます。

本日は、宮崎県 東臼杵農林振興局 農政推進担当の臼井様や町議会議員の山本様、遠山様にもお越しいただいております。ちくせん事務局として厚く御礼申し上げます。

それでは、開催にあたり、本会のプロジェクトリーダーである本吉よりご挨拶致します。

【プロジェクトリーダー（本吉）】

この会のプロジェクトリーダーを務めさせていただいております本吉でございます。本日はご多忙の中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

昨年 1 年間は、国に提出する計画書を作成するために、下区ちくせん実行委員会と当プロジェクトが協力しながら調査及び計画を進めてまいりました。慣れない作業や限られた時間の中での議論が続きましたが、関係者の皆様のご尽力により、着実に形にすることができました。

その結果なのですが、国に提出した計画は無事に「採択」され、本年 4 月からは、ちくせん実行委員会において令和 8 年度の活動準備に取り掛かっているところでございます。プ

プロジェクトリーダーとして、日頃よりご協力いただいている皆様に心より感謝申し上げます。

なお、令和 8 年度の予算額や具体的な取り組み内容の詳細につきましては、後ほどちくせん実行委員長の高城より説明させていただきますので、疑問点などがございましたら、どうぞ遠慮なくご質問ください。

最後に、下区ちくせん実行委員会は、「1 日でも長く下区で暮らすためにどうすればいいかを考えよう」を合言葉に活動を続けてまいりました。

本日お集まりいただいた皆様と、10 年後も 20 年後も笑い合える下区であり続けることを願ひまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【司会（松尾）】

それでは、本日の会における議長の選出を行いたいと思います。

下区ちくせん実行委員会の規約では、議長につきまして、「議長は下区ちくせん実行委員会の副実行委員長が行う」とありますので、下区ちくせん副実行委員長の甲田さんに議長をお願いしたいと考えております。皆さま、いかがでしょうか？

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございます。それでは、甲田さんに議長をお願いいたします。

【議長（甲田）】

本会の議長を務めさせていただきます甲田でございます。今日、お集まりいただいた皆様、改めまして厚くお礼を申し上げます。

それでは、早速、議事に入らせていただきます。

お手元の資料にございますとおり、議事 1 から 3 までございます。これからの議事につきましては、下区ちくせん実行委員長の高城の方から説明をいたして参ります。

それでは、まず議事 1 『R8 農山漁村振興交付金の採択について』をお願いします。

【説明者（高城）】

下区ちくせん実行委員長の高城と申します。本日は、ご多忙の中お集まりいただきありがとうございます。先ほど、プロジェクトリーダーの本吉が話しましたとおり、昨年从皆さまと幾度も議論を行い作り上げた計画が、国（農水省）より採択されました。これはまさに、皆様が私たち、下区ちくせん実行委員会が主導する調査・計画に真剣に向き合っていたいた結果です。

本日の会議では、国からいただく予算額や今後の調査・計画の内容について委員の皆さま

に丁寧に説明させていただきます。R8 からの 3 年間は、私たちに区の存続にかけた大事な時期です。困難なことも多いと思いますが、このメンバーであればそれを乗り越えられることができると信じていますので、どうかこれまで通りご協力いただきますようお願い致します。

議事に入る前に、P1 出席者の訂正を致します。

NO11 の平田さん（山須原農業者代表）は本日、欠席となりました。

また、現在名簿にはありませんが、美郷町役場 商工政策課の「松木 麗音」氏が参加となりましたので、名簿への書き込みをお願いします。

それでは早速ですが、議事 1 『R8 農山漁村振興交付金の採択について』についてご説明いたします。

<高城より議事 3－1 の説明>

【議長（甲田）】

今の説明について、ご意見、ご質問のある方はお願い致します。

【美郷町役場 農政課 川西委員】

意見になるが、P7 に記載のある「下区が交付金を活用する目的」について、我々、役場職員もその難しさを痛感している。町の総合計画では、人口を現在の 4000 人ではなく 3000 人と設定しており、まさに先ほど高城さんが言った「現状維持－緩やかな人口減」を考えているところ。

下区のちくせん実行員会の取り組みは、私たち美郷町も目指している姿だと思っている。

【議長（甲田）】

他にご質問はありませんでしょうか？

（拍手。「異議なし」の声あり）

ご意見等がないようなので、『R8 農山漁村振興交付金の採択について』の説明を終わりたいと思います。

それでは、続きまして、議事 2 の『R8 の予算及び活動方針について』の説明をお願いいたします。

【説明者（高城）】

<高城より議事 3－2 の説明>

【議長（甲田）】

今の説明について、ご意見、ご質問のある方はお願い致します。

【町議会議員 遠山委員】

買い物支援におけるネットスーパー連携の件なのだが、以前（自分が議員になる前）、日向のネットスーパーの話をスーパー担当者から直接聞いて、町内のある商店に話を持ち掛けたことがある。ただ、商店側があまり乗り気ではなく頓挫した経緯があった。

商工会についても仕事なので仕方ないと思うが、町内の事業者（商店）を守るだけで町民生活（買い物の利便性）まで見ていない気がしている。

【説明者（高城）】

遠山委員の仰るとおりで、私たち下区の買い物支援スキームは、役場や商工会では実現不可能だと思っている。なぜなら、両者は町内の商店を守る責務があるからだ。役場職員や商工会関係者に対して私が言いたいのは、「あなた方は一体どこで買い物をしているのか？」ということだ。自分たちは日向や延岡など町外で買い物をしていて、町民には「地元商店を使え」では筋が通らない。

町内商店では、生活に必要なものを全て揃えることができないから、皆、町外のスーパーに買い物に行くのではないのか？下区としては「地元商店を守る」ことより、「区民生活を守る」ことを優先する。

【町議会議員 山本委員】

下区の R8～10 の 3 ケ年計画は理解できた。ただ、3 年後に国の交付金が切れたらどうするつもりか？

【説明者（高城）】

委員の仰るとおり、交付金の切れた後の R11～が重要だと我々も認識している。いつまでも交付金に頼るわけにはいかず、自走は必要だ。この交付金の使途は、「農用地保全」「地域資源活用」「生活支援」の 3 本柱であり、自走に向けた金を生む事業はズバリ「地域資源活用」である。先ほど説明したとおり、「地域資源活用」には下区米のマーケティング戦略を考えており、下区米を使った商品を開発し、お客様に届けることで収益化を狙っている。そこで得た収益を、我々の活動に回せるようになるのが、この事業の最大の狙いだ。

さらに、「地域資源活用」における下区米のマーケティング戦略には、「農用地保全」の側面も含んでいる。米が売れるようになる→農家は農地で米を作り続けたい→区内の耕作放棄地が減る。「地域資源活用」における下区米のマーケティング戦略では、このような好循環を作っていきたいと考えている。

【小八重小組合長 松岡委員】

生活支援（買い物対策）において、先ほど高城さんがレンタカーの話をした。なぜ買い物支援にレンタカーが必要なのか？また、どこのレンタカー会社を考えているのか？

【説明者（高城）】

下区のモデルは支援員（買い物補助者）が、いわゆる買い物難民の自宅に伺い注文を受けた後、車で町外のスーパーに注文した品を取りに行くもの。この際、ガソリン代や車の摩耗、保険の問題が出てくる。支援員（買い物補助者）の車でこれら全ての責任を負わせるのは問題だと思っている。

したがって我々、下区ちくせん実行委員会が買い物支援の専用レンタカー等を借りて、保険をかけて万が一に備えることが重要だと考える。ちなみに、レンタカー会社についても、下区の買い物支援モデルの説明を先日行い現在、見積をお願いしているところ。我々が現在、接触・交渉しているネットスーパーやレンタカー会社の名前は、現段階で伏せさせていただく。

【山須原小組合長 黒木委員】

「農用地保全」の作業代行・管理受委託の設立の検討をしてくださることは、山須原住民の一人として切望している。山須原は高齢者も多く、農地や集落の維持管理には大変、苦勞を強いられている。この取り組みには大変期待している。

【町議会議員 遠山委員】

作業代行については、シルバーセンターに依頼する手段もあるが、そもそもシルバーセンターは登録されているシルバーさんが少なすぎる。西郷地域で一人。南郷でも 5 人程度だったと記憶している。

【説明者（高城）】

だから、私たちは自前で人員を揃えることを考えている。私たちの調査によるとシルバーセンターのデメリットは、遠山委員の仰るとおり登録人員が少ないことだ。したがって、作業の依頼をしても、すぐにはシルバーさんが派遣されず「すぐに作業をして欲しい」といった受益者ニーズを満たさない。

【議長（甲田）】

他にご質問はありませんでしょうか？

（拍手。「異議なし」の声あり）

ご意見等がないようなので、議事 2 の R8 年のちくせん実行員会と新たな村づくりプロジ

エクトの活動方針や予算については原案のとおり進めていきたいと思います。

それでは、最後に、議事3の『規約改正について』説明をお願いいたします。

【説明者（高城）】

<高城より議事3の説明>

【議長（甲田）】

今の説明について、ご意見、ご質問のある方はお願い致します。ございませんでしょうか？

（拍手。「異議なし」の声あり）

ご意見等がないようなので、議事3の『規約改正について』のとおり、7月以降新体制で活動を進めて参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

皆様方におかれましては、本日ここで決定しました内容を踏まえまして、引き続き下区ちくせん活動にご協力いただければ幸いです。

以上で議事は終了でございます。本日は議事進行へのご協力、誠にありがとうございます。

【司会（松尾）】

議長の甲田さん、どうもありがとうございました。

プロジェクトリーダーの本吉の話にもありましたように、「1日でも長く下区で暮らすためにどうすればいいかを考えよう」を合言葉に、本年度以降も頑張って参りますので、ちくせん活動に引き続きご協力いただければ幸いです。

最後に皆さまから、何かご意見・ご質問等はございますでしょうか？

【説明者（高城）】

最後に私から美郷町役場にお問い合わせがある。買い物支援についてなのだが、当区では人口流出が驚くほど進んでおり、計画当初に救済を想定していた買い物難民8名のうち、現在、残っているのは2名だけだ。

今週も、山須原の高齢者世帯が下区を離れ、ご夫婦で日向の施設に入ることになった。先ほど役場の川西委員が、「下区のちくせん活動は優良事例」と仰ったが、その下区ですらこの状況だ。我々だけでどれだけ頑張っても限界がある。

そこでお問い合わせがあるのだが、役場の買い物支援（あるいは交通弱者対策）で現在、取り組んでいる対策と直近3ヶ年程度の調査又は対策スケジュールを教えていただきたい。もし、役場と我々で、重複している所があれば、予算・人の面で役場にも協力していただくことは

できないのか？

【商工政策課 松木委員】

北郷で地域おこし協力隊を採用し、北の郷で試験的に移動販売を行う予定。後、店舗を作る際は設備投資の補助金を使えるようになっている。

【説明者（高城）】

私が認識している、買い物支援対策大きく以下の４つだ。

- ①店を作る
- ②移動販売
- ③宅配
- ④移動手段の提供

行政等の買い物支援は、上記４つのどこかにカテゴライズされる。

下区で今後３年間の RMO 予算で取り組むものは、③宅配と④移動手段の提供を併用したモデルである。今の話を聞くと、美郷町役場は①店を作ると②移動販売の２つということになり、我々の対策とは真逆だ。

①店を作ると②移動販売は我々も、去年、あらゆる角度から検討したが受益者ニーズを満たすことができず断念した。町としてその対策で今後も進めていく予定なのか。長尾町長からの具体的な指示はないのか？

【農政課 川西委員】

町長からの具体的な指示は、今日この会に参加している我々は聞いていない。

【説明者（高城）】

了解した。現段階では、役場に協力を依頼するのは難しいと感じた。ちくせん実行委員の皆さん、我々住民で歯を食いしばって頑張っていきましょう。

【司会（松尾）】

他にご質問はありませんでしょうか？

ご意見等がないようなので以上で全体会を終了します。本日はお疲れさまでした。

議 長 甲田 伊直

書記会計 松尾 律子